

第1号様式（第7条関係）

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 市 長		平成29年 7月25日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市左京区松ヶ崎橋上町1		報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 国立大学法人京都工芸繊維大学 学長 古山 正雄
京都市地球温暖化対策条例第22条第2項の規定により報告します。		
環境マネジメントシステムの名称	ISO14001	
適用範囲	松ヶ崎キャンパス、嵯峨キャンパス	
導入年月日	2001年 9月10日	
認証番号	JQA-EM6962	
基本方針	京都工芸繊維大学の教職員と学生は、協力して環境の保全と改善に努め、また、教職員は環境教育を通じて、研究活動はもとより日常生活においても常に環境問題に配慮しながら行動する、「環境安全マインド」を持った学生を育成し、21世紀の持続可能な発展に貢献する。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	エネルギー使用量の削減：2016年度は2011～2013年度の平均使用量に対して4.5%削減する。 水使用量の管理徹底：水使用量を抑制する。 紙使用量の削減による省資源：2016年度は2015年度比1%削減する。 廃棄物の削減・再利用・再資源化（3R）の推進：分別・削減を徹底する。 グリーン購入の推進：環境物品の調達を推進する。	
目標を達成するための取組の内容	エネルギー使用量の削減： ・昼休みの一斉消灯 ・夏季のエアコンの停止（昼間1時間以上） ・エアコンの設定温度の徹底 ・高効率照明・省エネ型機器への更新 水使用量の管理徹底：年間使用量の公開、節水の掲示 紙使用量の削減：両面印刷・裏紙利用推進 廃棄物の削減・再利用・再資源化（3R）の推進：3Rを推進、資源ごみの分別収集の徹底 グリーン購入の推進：実績をHPで公開	
目標を達成するための取組の進捗状況	エネルギー使用の効率化：高効率照明・省エネ型機器への更新計画を策定し、2011年度より順次更新している。	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	エネルギーについては、2011～2013年度平均使用量との比較で、目標値（4.5%削減）は未達成であった。これは、2016年度は、夏季が猛暑で、冬季が厳寒のため、空調によるエネルギー使用量が増加したことによるものと思われる。その他については計画どおりに取り組むことができた。 成果については、年2回マネジメントレビューを実施して報告している。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	関連法規の遵守状況について、内部監査及び外部監査で確認を行っている。これまで違反等はなかった。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	環境マネジメントシステムを長年運用することで、省エネ活動が定着し、活動を通して学生の環境安全マインドが育成されてきている。 2016年4月からISO14001:2015年版の規格に準拠したシステムへと見直し、更に教育研究における「安全管理」を追加した環境安全マネジメントシステムを構築し、運用している。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合にのみ記入してください。